

Headline H | 40pt

新しい風は
港を通して、まちに
運ばれてきた。

Text H | 14pt

開港以来、新しい風が港を通してまちに運ばれ、横浜の地と交じり合って育まれてきた風土を、現代まで続く横浜のアイデンティティのひとつと捉え、かつて船乗りが目印としたキング、クイーン、ジャックの横浜三塔をはじめ、大さん橋、赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなど、海上から見る「港のまち並み」をデザインに取り入れました。

Caption H | 9pt

濱明朝は、港を往来するフェリーや水平線をイメージしたほっそりとした横画に対し、海上から望む建築群を表現したどっしりとした縦画の太さを持たせた明朝体です。縦画と横画の対比を際立たせるという特長をより強く押し出したファミリー展開で、都市の幅の広さや、新しいものを取り入れるといった横浜の懐の深さを表しています。見出しやタイトル、本文や注釈などの幅広い用途での使用を想定して、一貫性を保ちながら太さのバリエーションを持たせています。風にはためく旗や錨のイメージという港らしさを演出した欧文は、漢字との調和を考慮したモダンローマン体を採用しています。

Display H | 280pt

風

Headline B | 40pt

新しい風は
港を通して、まちに
運ばれてきた。

Text B | 14pt

開港以来、新しい風が港を通してまちに運ばれ、横浜の地と交じり合って育まれてきた風土を、現代まで続く横浜のアイデンティティのひとつと捉え、かつて船乗りが目印としたキング、クイーン、ジャックの横浜三塔をはじめ、大さん橋、赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなど、海上から見る「港のまち並み」をデザインに取り入れました。

Caption B | 9pt

濱明朝は、港を往来するフェリーや水平線をイメージしたほっそりとした横画に対し、海上から望む建築群を表現したどっしりとした縦画の太さを持たせた明朝体です。縦画と横画の対比を際立たせるという特長をより強く押し出したファミリー展開で、都市の幅の広さや、新しいものを取り入れるといった横浜の懐の深さを表しています。見出しやタイトル、本文や注釈などの幅広い用途での使用を想定して、一貫性を保ちながら太さのバリエーションを持たせています。風にはためく旗や錨のイメージという港らしさを演出した欧文は、漢字との調和を考慮したモダンローマン体を採用しています。

Display B | 280pt

風 &

Headline M | 40pt

新しい風は
港を通して、まちに
運ばれてきた。

Text M | 14pt

開港以来、新しい風が港を通してまちに運ばれ、横浜の地と交じり合って育まれてきた風土を、現代まで続く横浜のアイデンティティのひとつと捉え、かつて船乗りが目印としたキング、クイーン、ジャックの横浜三塔をはじめ、大さん橋、赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなど、海上から見る「港のまち並み」をデザインに取り入れました。

Caption M | 9pt

濱明朝は、港を往来するフェリーや水平線をイメージしたほっそりとした横画に対し、海上から望む建築群を表現したどっしりとした縦画の太さを持たせた明朝体です。縦画と横画の対比を際立たせるという特長をより強く押し出したファミリー展開で、都市の幅の広さや、新しいものを取り入れるといった横浜の懐の深さを表しています。見出しやタイトル、本文や注釈などの幅広い用途での使用を想定して、一貫性を保ちながら太さのバリエーションを持たせています。風にはためく旗や錨のイメージという港らしさを演出した欧文は、漢字との調和を考慮したモダンローマン体を採用しています。

Display M | 280pt

風 &

Headline R | 40pt

新しい風は
港を通して、まちに
運ばれてきた。

Text R | 14pt

開港以来、新しい風が港を通してまちに運ばれ、横浜の地と交じり合って育まれてきた風土を、現代まで続く横浜のアイデンティティのひとつと捉え、かつて船乗りが目印としたキング、クイーン、ジャックの横浜三塔をはじめ、大さん橋、赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなど、海上から見る「港のまち並み」をデザインに取り入れました。

Caption R | 9pt

濱明朝は、港を往来するフェリーや水平線をイメージしたほっそりとした横画に対し、海上から望む建築群を表現したどっしりとした縦画の太さを持たせた明朝体です。縦画と横画の対比を際立たせるという特長をより強く押し出したファミリー展開で、都市の幅の広さや、新しいものを取り入れるといった横浜の懐の深さを表しています。見出しやタイトル、本文や注釈などの幅広い用途での使用を想定して、一貫性を保ちながら太さのバリエーションを持たせています。風にはためく旗や錨のイメージという港らしさを演出した欧文は、漢字との調和を考慮したモダンローマン体を採用しています。

Display R | 280pt

風 &

Headline L | 40pt

新しい風は
港を通して、まちに
運ばれてきた。

Text L | 14pt

開港以来、新しい風が港を通してまちに運ばれ、横浜の地と交じり合って育まれてきた風土を、現代まで続く横浜のアイデンティティのひとつと捉え、かつて船乗りが目印としたキング、クイーン、ジャックの横浜三塔をはじめ、大さん橋、赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなど、海上から見る「港のまち並み」をデザインに取り入れました。

Caption L | 9pt

濱明朝は、港を往来するフェリーや水平線をイメージしたほっそりとした横画に対し、海上から望む建築群を表現したどっしりとした縦画の太さを持たせた明朝体です。縦画と横画の対比を際立たせるという特長をより強く押し出したファミリー展開で、都市の幅の広さや、新しいものを取り入れるといった横浜の懐の深さを表しています。見出しやタイトル、本文や注釈などの幅広い用途での使用を想定して、一貫性を保ちながら太さのバリエーションを持たせています。風にはためく旗や錨のイメージという港らしさを演出した欧文は、漢字との調和を考慮したモダンローマン体を採用しています。

Display L | 280pt

風 &

Headline EL | 40pt

新しい風は
港を通して、まちに
運ばれてきた。

Text EL | 14pt

開港以来、新しい風が港を通してまちに運ばれ、横浜の地と交じり合って育まれてきた風土を、現代まで続く横浜のアイデンティティのひとつと捉え、かつて船乗りが目印としたキング、クイーン、ジャックの横浜三塔をはじめ、大さん橋、赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなど、海上から見る「港のまち並み」をデザインに取り入れました。

Caption EL | 9pt

濱明朝は、港を往来するフェリーや水平線をイメージしたほっそりとした横画に対し、海上から望む建築群を表現したどっしりとした縦画の太さを持たせた明朝体です。縦画と横画の対比を際立たせるという特長をより強く押し出したファミリー展開で、都市の幅の広さや、新しいものを取り入れるといった横浜の懐の深さを表しています。見出しやタイトル、本文や注釈などの幅広い用途での使用を想定して、一貫性を保ちながら太さのバリエーションを持たせています。風にはためく旗や錨のイメージという港らしさを演出した欧文は、漢字との調和を考慮したモダンローマン体を採用しています。

Display EL | 280pt

風 &

Caption EL	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Caption L	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Caption R	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Caption M	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Caption B	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Caption H	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Text EL	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Text L	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Text R	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Text M	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Text B	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Text H	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Headline EL	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Headline L	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Headline R	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Headline M	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Headline B	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Headline H	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Display EL	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Display L	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Display R	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Display M	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Display B	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。
Display H	港の風に吹かれながら、すこし調子外れに Love Song を歌う。

Display H Italic | 172pt

City &

Headline B Italic | 40pt

*A new wind had been
brought into the city from
the port in Yokohama.*

Text L Italic | 14pt

Hama Mincho's design incorporates the scale and distinctive character of the city of Yokohama.

The newly added Latin italic typeface is designed to recall the wind and waves of Yokohama with an overall flow line shape. Although the typical Latin italic typeface is assumed to be used along with the regular typeface, Hama Mincho's Latin italic is created with the aim of playing the role of a display typeface even by itself.

Caption R Italic | 9pt

Hama Mincho's design incorporates the scale and distinctive character of the city of Yokohama. On the basis of impressions of Yokohama that were gained through fieldwork, and more than 2000 phrases that were collected from local residents in a branding program held on the occasion of the 150th anniversary of the opening of the city's port, the following key phrases were chosen: 'A stylish town', 'A port alongside history', and 'Coexistence of tradition and new things'.